

EMERGENCY WATCH!!

疾患頻度

1. インフルエンザ 1247人
(確定：A型309人、B型799人)
2. 急性上気道炎・感冒 751人
3. 感染性胃腸炎 309人
4. 咽頭炎・扁桃炎・喉頭炎 233人
5. 気管支炎・肺炎 113人

No.87
Mar.2018

神戸こども初期急病センター

2018年2月受診者数 3155人

今年はインフルエンザが猛威をふるいました。皆様はいかがお過ごしでしょうか？私は、流行に遅れず、きちっとインフルエンザに罹患してしまいました。最近では流行も少し落ち着いてきていますが、引き続き、ご注意ください。

さて、今回は84号(2017年12月発行)に引き続き、RSウイルス感染症を取り上げたいと思います。症状や治療、受診に関するQ&Aは、84号に記載されていますので、そちらをご覧ください。

実はRSウイルスの流行時期が大きく変わってきています。従来の流行時期は毎年10月ごろに流行が始まり12月にピークとなり翌年3月頃に収束するとされていました。いわゆる冬の感染症でした。しかし、近年の傾向として流行開始と流行ピークの早期化が見られています(図)。実際、兵庫県においても2017年は7月に流行が始まり、8月にはRSウイルス感染症による入院症例が急増しました。その原因として、おそらく日本の気候の変化(温暖化と突然くる急激な寒冷化など)が推測されています。RSウイルス感染症は冬の感染症ではなく、夏の感染症に変わりつつあります。そのうち、熱帯地域のように通年性の感染症になるかもしれません。このように風邪ウイルスも以前の常識が現在の常識ではなくなっています。

限られたお子さんにはなりますが、このRSウイルス感染による重篤な下気道疾患の発症抑制のための予防薬パリビズマブ(シナジスR)があります。発症を完全には予防できないものの、入院する人の割合は減少することが示されています。早産児や早産出生に伴う肺疾患、先天性心疾患、免疫不全、ダウン症候群の児が対象になりますので、接種時期につきましては主治医にご相談ください。

RSウイルスの最近の流行状況 兵庫県

